



〔葉書〕
昭和十八年十二月十五日
岡鹿之助→木村莊八

昭和十八年十二月十五日 消印
杉並区和田本町八三二
木村莊八様

牛込区枳形町二十七
星谷病院にて

岡鹿之助

十二月十五日

思ひもかけぬ奥様の御見舞にあづかり、且つくさぐさの結構なる頂戴も
のをいたし、^{かたじけな}忝く存じ候。頂戴ものの中には「これは俺にとつといてく
れよ」と云はれたにちがひなき珍味有之。当方おしいたできてたべ候。病
気はいたしたきものかな。

高信拝誦 大いなる榮譽を以って遇されてゐる××。画人は此に対し
て「獲猿にして冠す」の一刀。キラリと霜の冷さを見せて快適を覚え候。
寛容なる大人にしてこの言葉ありとすれば、吾れ又何をか申すべき。

ブーグロオが勲章を光らせてゐる時、セザン又先生は寒風にさらされつ
つ、サン・ヴィクトワル山を描いてゐたといふ一章节に出逢ひては、おの
れ側々としてよろこび禁じがたし。まことに大人よ、われ等、ますますエ
デュサンをみがきとうとみて、かの三好野のうす甘きおコーヒーに、舌を
けがすことなからしめん。

拝謝